

クリスマスの日に行われたが、著名な方が関心を集めているテーマで講演されたため、多くの聴衆が来られ、討論者による解題のおかげもあり、密度の高い議論が行われた。(小島 宏記)

## 第76回日本社会学会大会

第75回日本社会学会大会は、東京都八王子市の中央大学多摩キャンパスにおいて、10月12日～13日の両日にわたって開催された。一般研究報告とテーマセッション合わせて47部会の他、ポスターセッションや国際交流委員会ラウンドテーブルなどもプログラムに上がった。また「資本主義と日常世界」「差異／差別／起源／装置」の2本のシンポジウムが開催された。本研究所からは西岡八郎人口構造研究部長が、一般研究報告で「日本における高齢者のリビング・アレンジメントー特に親族のアヴェイラビリティー」と題する報告を行った。(鈴木 透記)

## 日本地理学会2003年度秋季学術大会

日本地理学会2003年度秋季学術大会が、2003年10月11日～15日、岡山大学(岡山県岡山市)において開催された。口頭119件、ポスター34件の計153件の一般発表、および50件の発表を含む7つのシンポジウムが行われた。人口関連分野についても多数の報告がなされた。以下、主なものについて発表題目を紹介する。

- 「大都市郊外地域における高齢人口の増加と高齢人口移動」 平井誠(神奈川大学)  
「大都市圏郊外地域における人口高齢化の空間的差異ー埼玉県川越市を事例に」 平沼佐枝(東京大学・院)  
「南太平洋地域、トンガからの国際人口移動ー行動論的アプローチ」 Esau, R. L.(京都大学・院)  
「わが国の二大都市圏における若年就業者の空間構造」 渡邊圭一(湘南工科大学・非)  
「地方圏における情報技術者の移動と技術水準」 中澤高志(学振PD), 荒井良雄(東京大学)  
「ヨーロッパ統合時代のフランス・ドイツ・スイス国境地域(1)」  
ーバーゼル国境地域における人口流動と地域的機能分担」 呉羽正昭, 小田宏信(筑波大学)  
「埼玉県川口市芝園団地における中国人ニューカマーズの集住化」  
ー日本における華人新移民の一考察」 江衛(東洋大学・院), 山下晴海(東洋大学)  
(山内昌和記)

## 2003年度人文地理学会大会

2003年度人文地理学会大会が、2003年11月15日～17日、関西大学(大阪府吹田市)において開催された。口頭75件、ポスター6件の計81件の一般発表、および4件の特別発表が行われた。人口関連分野については、2003年10月に行われた日本地理学会2003年度秋季学術大会と日程が近いこともあり、それほど多くはなかった。以下、主なものについて発表題目を紹介する。

- 「青森発、戦後最初の就職列車ー人身売買から集団就職へー」 山口覚(関西学院大学)

「バンクーバーとその周辺における近年の人口動向－住宅地の変化を絡めて－」

香川貴（京都教育大学）

「母子世帯の就業と住宅状況の地域的差異」

由井義通（広島大学）

「女性のローカル・ライフコース－地方圏出身者の場合－」

神谷浩夫（金沢大学）・中澤高志（学振PD）

「女性のローカル・ライフコース－大都市圏出身者の場合－」

中澤高志（学振PD）・神谷浩夫（金沢大学）

「1990年代の東京区部における人口変動－国勢調査小地域集計結果の分析から－」

宮澤仁（東北大学）・多田寿人（東北大学・院）・阿部隆（日本女子大学）

（山内昌和記）

## ハワイ大学東西センター・総務省統計局共催 「21世紀人口センサス会議」

2003年11月19日（水）～21日（金）、京都国際会議場において、ハワイ大学東西センターと総務省統計局の共催による「21世紀人口センサス会議」が開催された。この会議に先立って（11月17日～18日に）同じ会議場で第10回東アジア統計局長会議が開かれ、そこでは人口センサスの実施ならびにデータ管理・利用方法が議論された。その参加者の多くと別途招待された専門家を含めて人口センサスの中味を議論したのが21世紀人口センサス会議である。プログラムは下記の通り。

### セッション1. 開会式

- |                  |   |
|------------------|---|
| 2. センサス報告Ⅰ       | 7. センサス報告Ⅳ（人口高齢化）                       |
| 3. センサス報告Ⅱ       | 8. パネル・ディスカッション（人口センサスの<br>人口・社会政策への利用） |
| 4. 人口推計          | 9. 国際的問題                                |
| 5. ソフトウェアと技術関連問題 | 10. 全体会議                                |
| 6. センサス報告Ⅲ       |   |

センサス報告のセッションでは、アジア・米国の17カ国からセンサス結果の多様な面についての報告があった（日本については、2000年センサスの精度の問題、学歴別出生率の動向、パラサイト・シングル増大傾向の報告があった）。人口推計のセッションではマレーシア、インドネシア、米国、日本の4カ国が報告を行った（日本は小川直宏日本大学教授が日大人口推計の結果を報告）。国際的問題のセッションでは、アジア統計研修所、国連統計局、アジア開発銀行からの専門家が人口センサス・データの国際的レベルでの利用について報告した。パネル・ディスカッションでは、筆者が座長を務め、高橋重郷本研究所人口動向研究部長、ナンシー・ゴードン（米国センサス局）、リー・ジリュウ（中国国家統計局）、ジユン・リー（韓国国家統計局）の各氏が、各々の国において人口センサス結果が人口・社会政策にどのように利用されているかを報告し、それについての議論を行うとともに、日本の現状をふまえて、人口センサス・データの利用の拡大（特に個票データの利用拡大の可能性）についても議論が行われた。（阿藤 誠記）